



優勝したワン・イレブンの後藤社長（中央）とほかの受賞者ら

起業家支援コンテスト

婦人靴販売の「ワン・イレブン」が優勝

起業家支援の有志団体、

した。

N-1グランプリ実行委員会は、このほど、名古屋市千種区千種の千種文化小劇場で、創業後7年未満の起業家を対象としたビジネスプランコンテスト「N-1グランプリRED」を開催した。起業家4人がそれぞれの事業内容やビジネスプランを披露。審査員は起業家やベンチャー企業のコンサルタント事業を行う経営者などが務め、収益性や将来性、社会貢献性などについて審査した。

優勝者は婦人靴の企画・販売を手掛けるワン・イレブン（本社北名古屋市の後藤篤志社長。同社は履きやすく軽い日本製の靴を販売している。後藤社長は「日本最大のショッピング通販などを通じて商品を販売するめどが立っており、海外向けにも販売していく予定と、自社の今後の事業プランを熱く語った。



名古屋市は16日、第一生命保険（本社東京）と健康増進や高齢者支援、市が進める「なごや子ども応援委員会」との連携など8分野にわたる包括協定を締結した。市の包括協定先としては5社目。第一生命はこれまで18都道府県と包括提携を結んでいるが、政令指定都市とは初めて。今後、健康診断受

工場や倉庫を訪れた際に、床に緑や赤のテープで線が引いてあるのをご覧になったことはないでしょうか。この意味は、商品在庫や資材、台車などの器置の置き場を分かります。一方、そのような会社を

着眼大局 着手小局

誓いを果たされる人男



です。しかし、残念ながら多くの現場において、その定められた場所に物が置かれておらずはみ出していたり、荷物が整然と積まれておらず崩れていたりする場面を見ることがあります。これでは、在庫管理を適切に行うことができ

理念とともに大切にしたいこと

もちろん、前向きな取り組みを否定するものではありません。私が、会社経営における上位の概念を考えているときに、現実では足元の現場が、おろそかになってはいけません。どうか、「良樹細根」といふことばにあるように、良い経営をしていくためには、細

現場の「泣き声」に耳を澄ませる

見直し、経営を見直し、生き方を直す。

かい根となる部分にこそ気を配ることが大切ではないでしょうか。京セラの創業者である稲盛和夫氏は、謙虚な目でじっくり観察してみると「製品の泣き声」が必ず聞こえてくる、と仰っています（「働き方」より引用）。全員参加型経営を

ないかと思えます。そんな現場から発せられる泣き声に耳を澄ませることができ、そんな人生を歩んでいきたいのです。【加藤滋樹・プレゼンター】

（毎週土曜日掲載）